

# 「令和6年能登半島地震」 地震発生確率の状況（2月9日00時00分現在）

- ・前回（2月5日）の報道発表時点では、「今後1～2週間程度、最大震度5弱程度以上の地震に注意」としていました。
- ・本日の時点でも、最大震度5弱程度以上※1の地震の発生する可能性は依然として高い状態です。発生する可能性が高い期間は「今後1～2週間程度」です。
- ・地震発生確率※2は1月1日のM7.6の地震発生当初に比べて1／8程度、平常時の40倍程度となっています。

## 地震発生確率の状況

地震発生確率の起点日時	地震発生当初との比較	平常時との比較
	最大震度5弱程度以上※1	最大震度5弱程度以上※1
2月9日00時	1／8程度	40倍程度

- ※1）確率は比較的低いものの、最大震度5強以上を観測する地震についても、平常時と比べると依然として発生しやすい状況にあります。
- ※2）地震調査研究推進本部の報告書「大地震後の地震活動の見通しに関する情報のあり方」（2016年8月）に基づき、以下の通りとしています。
  - ・本資料における地震発生確率とは起点日時から3日間の地震発生確率です。
  - ・地震発生当初の確率は、地震発生直後から3日間の確率を計算したものです。
  - ・「地震の発生する可能性は高い状態」の判断は、1ヶ月に1回程度の発生に相当する確率値を基準にしています。
  - ・平常時との比較で100倍を超えている場合は、「100倍超」としてしています。